

々の言ふ通り svayambhū (自然のといふ)が存在し、而もそれがハズラトアリ Hazrat Ali に殺されたアヂハ "Ajāhā" 又は龍だと云ふ譯で參拜者が多いが、此の種の強い地方的信仰は存外馬鹿にならぬと云ふことは從來の經驗に徴しても明かである。尙ほ、それよりも價值ある昔噺を都合よく其の地で聞くことが出来たが、これは特に宗教の變遷を語り、其の過度を緩和する爲のもので、其の善導的な物語によると、マホメットの從弟で其の婿となつた者が佛陀のしたやうに(但し、それよりも残忍な手段で)國土を惡蛇又は龍の難から救はうといふ大願を起した。彼は其の目的を果す前に、昔菩薩のした通りに、自分の身柄を或る乞食に與へて懸賞で自分の首級を求めて居る敵王の許に持行かしめ、報酬を取らせたと云ふのである。その外に尙ほ、聖跡の東北に當る高地には今でも古代の寺跡があり、それから一段低くなつて稍々廣い高地では定期的に「無遮會」が行はれたものであるが、法師も矢張り其處が此の會場であつたと認めて居るやうである。

以上の判定の如何に拘はらず、佛教時代に於ける市街の位地に就ては疑ひ